

－ 研究課題 2 (3) カリキュラム・マネジメント －

都道府県・指定都市番号	1	都道府県・指定都市名	北海道
-------------	---	------------	-----

1 研究指定校の概要

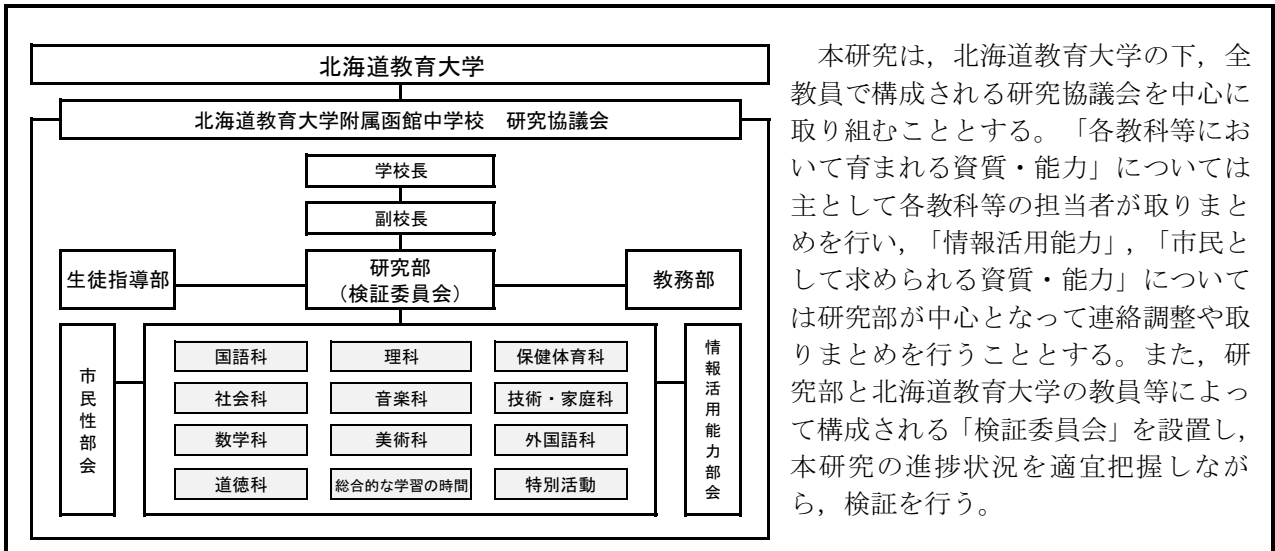
ふりがな 学校名	ほっかいどうきょういくだいがくふぞくはこだてちゅうがっこう 北海道教育大学附属函館中学校		ふりがな 校長氏名	かねみつ ひでお 金光秀雄	
所在地	〒041-0806 北海道函館市美原3丁目48番6号 電話 0138-46-2233 FAX 0138-47-6769 E-mail gunji.naotaka@h.hokkyodai.ac.jp				
(H30.4.1 見込)	1年	2年	3年	計	(H30.4.1 見込。臨時的任用の者は常勤の者のみ含む) 教員数 18名
学級数	3	3	3	9	
生徒数	104	103	109	316	
特記事項					

2 研究主題等

学校における研究主題	資質・能力の育成を実現するための効果的なカリキュラム・マネジメントに関する実践研究
研究主題設定の理由	<p>1 学校の現状や課題</p> <p>本校は、平成29年度から「新学習指導要領の趣旨を実現する教育の展開」を学校研究主題として設定し、3年間の実践研究に取り組んでいる。平成29年度は、「『学びの地図』に基づいた各教科等の単元のデザイン」という副主題のもと、まず、学校として育成を目指す資質・能力として「各教科等において育まれる資質・能力」、「情報活用能力」、「市民として求められる資質・能力」（「市民」とは、本校が「主体的・能動的に事柄に関わり、自ら社会へと働きかけ、参画する存在」として設定したものである。）を設定した。次に、全ての教科等で共通様式である「年間単元配列シート」を作成し、互いの教科等がどの時期にどのような単元の学習を行っているかを明らかにした。そして、どの単元でどの資質・能力の育成を目指すのかを明らかにした「資質・能力シート」を全ての教科等の全単元について作成した。さらに、各単元の指導計画を「単元デザインシート」として共通様式で編成し、単元を一つの単位とした実践を積み重ねた。（以下「年間単元配列シート」、「資質・能力シート」、「単元デザインシート」をあわせて「指導計画等」という。）一方、編成及び実践した教育活動に対する多角的な評価の実施や、評価を活用した改善について、組織的に取り組むことを課題とした。</p> <p>2 研究の目的</p> <p>本研究は、中学校において、資質・能力の育成を実現するための効果的なカリキュラム・マネジメントの在り方に関する実践研究を行う。</p> <p>3 研究期間中に達成したい目標</p> <p>(1) 全ての教科等で、資質・能力の育成を実現するための意図的・計画的な指導計画等の在り方を具体的に提示する。</p> <p>(2) 全ての教科等での実践を多角的に評価する仕組みを構築し、それらの評価を踏まえた指導計画等の改善の過程を明らかにする方策を具体的に提示する。</p>

研究の内容	<p>平成 29 年度の学校研究に関する研究成果及び課題を踏まえて、全ての教科等で、資質・能力の育成を実現するための意図的・計画的な指導計画の在り方、実践を多角的に評価する仕組みの構築と評価を踏まえた指導計画等の改善の過程に焦点を当てた研究に取り組む。</p> <p>【具体的な取組の内容】</p> <p>(1) 全ての教科等において、いつ、どのような資質・能力の育成を目指すのかを明らかにした指導計画等を作成する。</p> <p>(2) 育成を目指す資質・能力のうち、特に「情報活用能力」と「市民として求められる資質・能力」の育成に関する教育内容等を配列した表を作成する。</p> <p>(3) 全ての教科等における単元等ごとに、生徒への質問紙調査を実施する。</p> <p>(4) 学期ごとに、本研究の進捗状況を把握しながら取組についての検証を行う。ここでは、担当者自身の振り返りや経験だけではなく、当該単元における生徒のワークシートやノート、学習の様子の写真などを根拠とした検討を行う。</p> <p>(5) (3) 及び (4) の評価を踏まえた上で (1) 及び (2) の改善に取り組むとともに、その過程の記録を蓄積する。</p>
-------	--

3 研究体制等



4 研究計画

	実施時期	研究内容、研究方法、成果の公開等	期待される成果等
平成30年度	1 学期	<ul style="list-style-type: none"> 平成 29 年度実践に基づいて、平成 30 年度の指導計画等を作成する。(5 月) 指導計画等に基づく実践を行う。また、単元ごとの評価規準に基づいた、生徒による質問紙調査を実施する。(5～7 月) 教育研究大会において、本研究に関する提案を行うとともに、評価・改善に関する協議を行う。(6 月) 検証委員会による学年主任及び教科主任を対象にしたヒアリングを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 本研究開始時に実施した評価・改善の手法について、のちに比較検討するための素材を得ることができる。 評価・改善のための資料を収集することができる。 参会者との協議を通して、本研究の課題を明らかにすることができる。 編成した指導計画等がどのように実践され、質問紙調査等や生徒の

		(7月末～8月上旬)	ワークシート等を活用してどのように評価したのかなどを明らかにすることができるとともに、その過程を記録することができる。
	2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画等に基づく実践を行う。また、単元ごとの評価規準に基づいた、生徒による質問紙調査を実施する。(8～12月) ・教員と生徒を対象にして、本研究に関するアンケートを実施する。(12月) ・検証委員会による学年主任及び教科主任を対象にしたヒアリングを実施する。(12月末～1月上旬) 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価・改善のための資料を収集することができる。 ・本研究の取組について調査し、より効果的な研究推進へ改善を図ることができる。 ・編成した指導計画等がどのように実践され、質問紙調査等や生徒のワークシート等を活用してどのように評価したのかなどを明らかにすることができるとともに、その過程を記録することができる。
	3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画等に基づく実践を行う。また、単元ごとの評価規準に基づいた、生徒による質問紙調査を実施する。(1～3月) ・検証委員会による学年主任及び教科主任を対象にしたヒアリングを実施する。(3月末) ・教員と生徒を対象にして、本研究に関するアンケートを実施する。(3月末) ・1年間の評価を踏まえて改善し編成した次年度の指導計画等について、検証委員会による学年主任及び教科主任を対象にしたヒアリングを実施する。(3月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価・改善のための資料を収集することができる。 ・編成した指導計画等がどのように実践され、質問紙調査等や生徒のワークシート等を活用してどのように評価したのかなどを明らかにすることができるとともに、その過程を記録することができる。 ・本研究の取組について調査し、より効果的な研究推進へ改善を図ることができる。 ・1年間の評価によって改善した指導計画等の編成に関するヒアリングを行うことで、実施した評価の意義を検証することができる。また、生徒の姿を本研究の検証のための資料とすることができる。
平成31年度	1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画等に基づく実践を行う。また、単元ごとの評価規準に基づいた、生徒による質問紙調査を実施する。(4～7月) ・教育研究大会において、本研究に関する提案を行うとともに、評価・改善に関する協議を行う。(6月) ・教員と生徒を対象にして、本研究に関するアンケートを実施する。(7月末) ・検証委員会による学年主任及び教科主任を対象にしたヒアリングを実施する。(7月末～8月上旬) 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価・改善のための資料を収集することができる。 ・参会者との協議を通して、本研究の成果と課題を明らかにすることができる。 ・本研究の取組について調査し、より効果的な研究推進へ改善を図ることができる。 ・編成した指導計画等がどのように実践され、質問紙調査等や生徒のワークシート等を活用してどのように評価したのかなどを明らかにすることができるとともに、その過程を記録することができる。
	2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画等に基づく実践を行う。また、単元ごとの評価規準に基づいた、生徒に 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価・改善のための資料を収集することができる。

		<p>よる質問紙調査を実施する。(8～12月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員と生徒を対象にして、本研究に関するアンケートを実施する。(12月末) ・検証委員会による学年主任及び教科主任を対象にしたヒアリングを実施する。(12月末～1月上旬) 	<ul style="list-style-type: none"> ・本研究の取組について調査し、より効果的な研究推進へ改善を図ることができる。 ・編成した指導計画等がどのように実践され、質問紙調査等や生徒のワークシート等を活用してどのように評価したのかなどを明らかにすることができるとともに、その過程を記録することができる。
3 学期		<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画等に基づく実践を行う。また、単元ごとの評価規準に基づいた、生徒による質問紙調査を実施する。(1～3月) ・検証委員会による学年主任及び教科主任を対象にしたヒアリングを実施する。(3月末) ・教員と生徒を対象にして、本研究に関するアンケートを実施する。(3月末) ・1年間の評価を踏まえて改善し編成した次年度の指導計画等について、検証委員会による学年主任及び教科主任を対象にしたヒアリングを実施する。(3月) ・本研究に関する最終まとめを行う。(3月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価・改善のための資料を収集することができる。 ・編成した指導計画等がどのように実践され、質問紙調査等や生徒のワークシート等を活用してどのように評価したのかなどを明らかにすることができるとともに、その過程を記録することができる。 ・本研究の取組について調査し、より効果的な研究推進へ改善を図ることができる。 ・1年間の評価によって改善した指導計画等の編成に関するヒアリングを行うことで、実施した評価の意義を検証することができる。また、生徒の姿を本研究の検証のための資料とすることができる。 ・2年間の研究を総括し、今後の方向性を検討することができる。

5 研究のまとめの見通し

カリキュラム・マネジメントのための具体的な方策について、PDCA サイクルの段階ごとに明らかにすることができる。また、その方策を整えるまでに取り組んだ研究過程を整理し、公開することによって、他校が実施する際に留意すべき点や特に重視する点などを明らかにすることができる。

検証については、研究部と北海道教育大学の教員等によって構成される「検証委員会」を設置し、実施する。

- (1) 学期ごとに、学年主任及び教科主任を対象とするヒアリングを実施する。本ヒアリングを通して、編成した指導計画等がどのように実践され、質問紙調査等や生徒のワークシート等を活用してどのように評価したのかなどを明らかにするとともに、その過程を記録する。
- (2) 年度末に、1年間の評価を踏まえて改善し編成した次年度の指導計画等について、ヒアリングを実施する。本ヒアリングにおいては、改善や編成の根拠となる生徒の変容の姿について、ワークシート等の記述などから具体的に示すことを求める。また、ここで示された生徒の姿を本研究の結果検証のための資料とする。
- (3) 一定の期間ごとに、教員と生徒を対象にしたアンケートを実施する。本アンケートにおいては、本研究の取組について調査し、より効果的な研究推進のための資料とする。